



かとう みえこ
加藤 美江子

こうめいとう きいんだん
公明党議員団

医療的ケアを要する障がい児に対する支援は

問 津市において、医療的ケアを要する子どもの数は毎年10人前後あるという。退院した日から孤独と不安を抱え、寝る間もなく介護を続けなければならない保護者に対し、退院までに保健・医療・福祉・教育等の関連分野での協議ができ、安心して在宅医療ができる環境を整えることが必要だと考える。

関係機関との連携体制はどのように構築していくか。

答 医療的ケアが必要な子どもについては、入院中に養育医療の手続きをすることが多く、保健師が面談して状況の把握に努めている。

また、現在必要な支援を円滑に受けるため、保健・医療・福祉その他の関連分野の支援を行う機関との連絡調整ができるよう協議の場を作る取り組みを行っている。具体的には、三重病院を中心とし、障害児相談支援事業所や津市児童発達支援センター「つっぼっぼ」、津市障がい者相談支援センター、三重大学医学部附属病院の小児トータルケアセンター、障がい福祉課、保健センターなどが集まり、医療的ケア支援ネットワークについて研修会を開催するなど、支援体制の構築を進めている。

●その他の質疑・質問●

- 児童虐待防止対策の強化について
- 食品ロスの削減について
- 「男性の育児休業取得促進事業」について
- 特別支援教育の理念と課題は
- 日本三大名泉「榊原温泉」の魅力の発信と集客戦略は



▲医療的ケア支援ネットワークに関する研修会



つじ みつこ
辻 美津子

しみん
市民クラブ

(仮称)津市久居ホールの早期整備を

問 (仮称)津市久居ホールは、副都市核としてふさわしい、にぎわいのあるまちづくりを進めるとともに、旧久居市民会館に代わる新たな文化施設として、地域住民から大きな期待が寄せられている。

整備についての市の姿勢、考え方、今後のスケジュールはどのようなものか。駐車場の適正台数と用地取得に向けた取り組み、現在の進捗状況は。

答 合併時からの課題であった旧久居市民会館に代わる文化芸術の拠点であるホールの建設について、市民の皆さんの大きな期待に応えるべく、準備を着実に進めてきた。事業用地の一部は民有地であることから、土地収用法に基づく三重県の事業認定の手続きを進めているが、個人の財産権を取得することになるので慎重に行っている。地権者の方にもご理解いただき、協力をお願いする。

スケジュールについては、若干遅れているが、三重県の事業認定がされれば、早期に用地買収を行い、一刻も早く建設工事に着手したいと考えている。駐車場については、大型2台を含めた278台を確保でき、利用者にご不便をかけないと考えている。

●その他の質疑・質問●

- 榊原地域の振興について
 - 交付金の執行状況は
 - かんこ踊りやニューツーリズム事業の取り組みについて
- 市内の道路標示や区画線の整備について
- 部活動での教員や子どもたちの負担について
- 高齢者に対しての住宅の耐震化、福祉と防災を結びつける取り組みについて



▲準備が進む(仮称)津市久居ホールの建設予定地